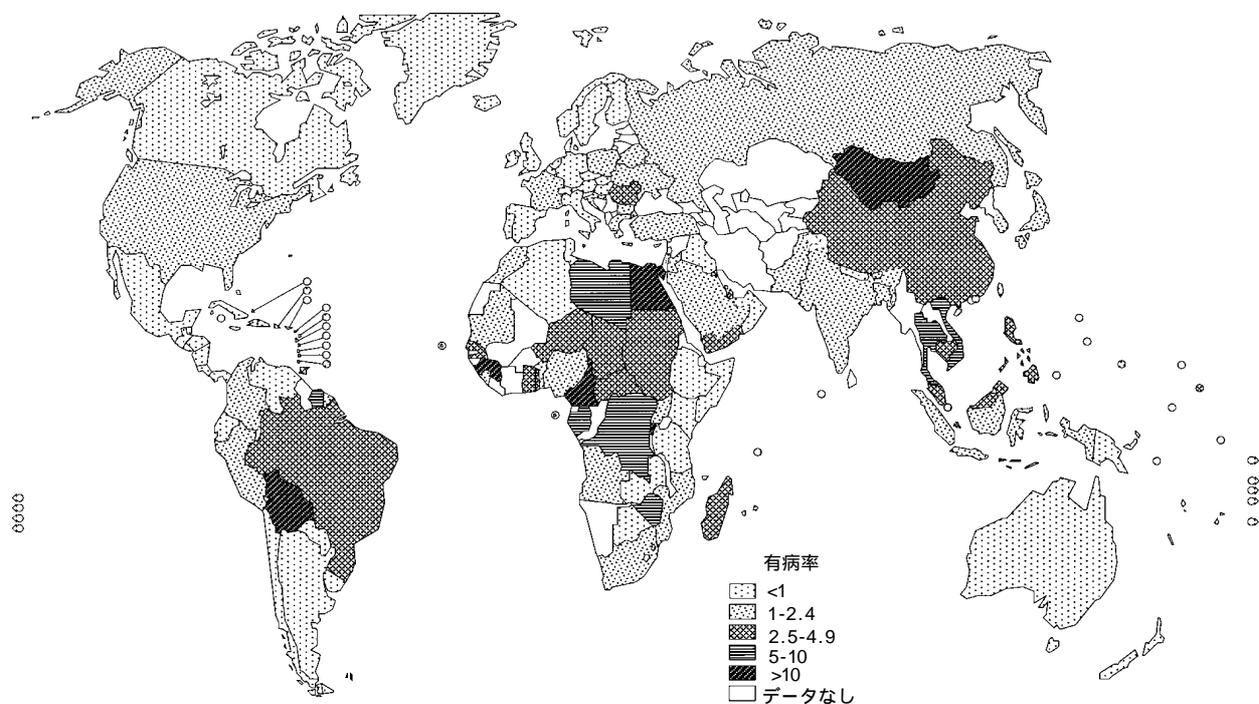


今週の話題：

< C型肝炎 >

図1は、1999年6月時点で、131の国・地域からWHOに提出された最新のC型肝炎の流行状況を示す。人口やデータ収集・解釈方法の相違、そしてこれらの国から報告されたデータが限定されているため、この図は必ずしも実際の流行状況を表すわけではない。

世界のC型肝炎の有病率^a、1999年6月

^a公表データに基づく

WHO 99511

< ワクチンと生物製剤 >

専門家で構成される戦略諮問グループ Strategic Advisory Group of Experts (SAGE) の報告、1999年11月: WHO のワクチン事業に対して、これまで専門家グループが1980年代には拡大予防接種計画 (EPI)、1990年代には地球規模予防接種計画 (GPI) を勧告してきた。今回、2000年代に向けて広い視野から諮問できるよう SAGE が結成された。WHO は、2000年から2001年の戦略プランとして、以下の3分野及び各分野における最優先課題を取り上げた。この戦略に関して SAGE 初回会議が1999年11月にひらかれた。

1. 新機軸

ワクチン導入の促進 (最優先課題): 発展途上国では、病気に関する情報の欠如・供給と資金調達などの問題から、援助は遅れがちである。WHO による新しい予防接種計画は、大きな効果をもたらさずであろう。国際レベルで支援することの重要性が示された。

研究における新機軸: ワクチンの研究は今後も必要不可欠であるが、産業との協力も不可欠であると考えられる。

2. 予防接種のシステム

予防接種の安全性 (最優先課題): 予防接種の安全性を維持するために委員会が設立され、科学的な安全性・効率性については、国家レベルで提唱することの重要性が承認された。

予防接種へのアクセスの向上：予防接種率は世界の小児のおよそ 80%に達したが、残りの 20%は予防接種を受けていないのが現状である。その 20%の貧しい国に対する医療サービスと予防接種の改善を試みている。注射器・注射液も不足しており、WHO はガイドラインを設定し、国連を通じて注射物資を購入するよう依頼した。

監視の動向：SAGE では、予防接種プログラムの効果的な監視体制は、財源を必要とし、すべての一括予防接種予算に含まれるべきであるとしている。

ワクチンの質の向上：SAGE では、新たに開発されたワクチンを評価、認可するために、WHO が国家の規制担当を一層支援することを勧めている。

予防接種の促進：SAGE は、小児が平等となるための手段としての予防接種の概念を支持している。

3. 疾患制圧の促進

ポリオの根絶（最優先課題）：SAGE は、最終段階にきているポリオ根絶事業に対する援助の緊急性を指摘した。ポリオウイルスを根絶しない限り、現在ポリオの存在しない地域でも、発生リスクは高くなる。

またポリオ根絶の遅れは、1年あたり最大1億USドルもの事業コストを増加させるだろう。

世界的な目標：世界規模での目標を掲げるのではなく、国・地域によって目標設定するべきであるとした。このような目標が維持され、そして予防接種促進することを目指した。

流行ニュースの続報

インフルエンザ

2000年1月に、ベルギー、カナダ、チェッコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イスラエル、イタリア、ラトヴィア、オランダ、ノールウェー、ポーランド、スロヴァキア、スペイン、スウェーデン、スイス、英国、アメリカ合衆国等において、流行の続報が報告された。（WER 参照）

流行ニュース

ドイツに輸入されたラッサ熱

23歳の女子学生がラッサ熱と診断されたことがWHOに報告された。ラッサ熱は、1950年代に初めて記述された急性疾患である。ウイルスは1969年にはじめて分離された。西アフリカで発生し、齧歯動物からの排泄物と直接又は間接的接触を通じてヒトに感染する。またヒトからも体液又は血液の直接接触によって感染する。病気の初期兆候はゆるやかで、目と喉の炎症、嘔吐、熱であるが、ひどい場合は脳出血などのショックを起こす。入院している患者の15%が亡くなり、25%の患者は聴覚障害が起こる。病気の兆候は、重症のマラリア・黄熱および他のウイルス出血熱と区別するのは難しく、決定的な診断は、きわめて専門的な研究所だけで行われる。治療は、最初の6日間が有効である。この風土病の自然界における感染を防ぐ主な方法は、齧歯動物の排泄物との接触を避けることと齧歯動物の駆除である。またヒトからの感染予防は、患者の隔離、消毒、管理である。

ブラジルにおける黄熱

1月13日、確定診断された黄熱の3症例をWHOに報告した。3人とも前年12月に、ブラジルから約250km北の国立公園で感染した。公園は黄熱が風土病であるのが知られており、野生鳥獣感染から生じていた。患者3人のうち2人はブラジル人、1人はリオデジャネイロの住民で、黄熱が流行していない都市で確認されたため、両都市では予防接種と媒介動物の駆除が行われている。ブラジルでは十分量の黄熱ワクチンが入手できる。